

世界最大規模のロボット競技会が日本へ！

FIRST LEGO League

ファースト・レゴ・リーグ

Open Asian Championship

オープンアジアチャンピオンシップ 2008

2008年4月27日～29日、NPO法人・青少年科学技術振興会などの主催による「FIRST LEGO League オープンアジアチャンピオンシップ(アジア世界大会) 2008」が開催された。FIRST LEGO League (以下、FLL) とはNPO法人FIRSTとLego社によって設立された国際的な科学教育のプログラムのことで、アメリカでは1998年から大会が開催されている。日本では2004年12月から「ジャパンオープン」として開催を続けている。

FLLへの参加は9～15歳(ヨーロッパでは10～16歳)の小中学生であれば、誰でも行える。1チームは3～10名の選手と大人のコーチ1名で構成されている。大会運営が多くのボランティア・スタッフで支えていることも大きな特徴である。

さらにFLLの活動は幅広く国際的だ。全世界でFLLに参加する選手の数なんと42カ国・10万人以上にも達している(日本の100倍以上)。これは文句無しに世界最大規模のロボット競技会である。 まつばら たくや 松原 拓也 / (有) ニコ



初めて世界大会を日本で開催

今回の世界大会は、今までの2007年度のFLLの総決算として、規模を国際レベルにスケールアップしたものである。では、出場までの流れを簡単に紹介しよう。まず去年9月に大会のテーマが公開。テーマは「Power Puzzle (代替エネルギー)」。各チームは8週間以上もこの課題に挑み、去年の11～12月には日本全国の7カ所・8会場で開催された。今年の参加者数は合計で120チーム・約700名。それを勝ちぬいた全36のチームは、

2007年12月末に行われたジャパンオープン2007に参加。さらにその結果から選抜されたのが、次の7チームである。

「奈良教育大附属中学校」「X-PUZZLE」「Toin Robotics Jr.」「mottainai」「帰ってきた九州の侍」「近畿大学附属豊岡中学校・自然科学部」「煌(きらめき)」(順不同)。

今回のFLLの世界大会は、アメリカ・アトランタと日本の2ヵ所で行われた。日本が舞台になるのはFLLでは初めてのこと(アジア地区でも初めて)。会場には24カ国・全56ものチームが集まった。

なお、アトランタの世界大会(FIRST

ワールドフェスティバル in Atlanta) はすでに4月17～19日に開催済み。日本からは「Eleven」というチームが参加した。



東京体育館のメインアリーナ。ここに全世界の24カ国から700名以上の選手が集まった。

3つのプレゼンテーション

大会当日は、3種類のプレゼンテーション(一般非公開)が行われた。プレゼンテーションの発表方法は自由。選手は資料と話術を駆使して、「自分の意見や考えを主張・説得する力」を発揮する。

チームワークプレゼンテーション



チームのメンバー紹介、活動を通じての苦労談や楽しかったことなどを発表する。写真は中国のTaishan Juniorチーム。

テクニカルプレゼンテーション



自分たちの製作したロボットの構造やプログラム、戦略を発表していく。写真は近畿大学附属豊岡中学校・自然科学部。

リサーチプレゼンテーション



ここでは、独自に調査した内容と、全く新しい科学技術を発表していく。写真は奈良教育大附属中学校。